



▲平成25年4月6日～30日までライトアップされた沢端川の桜並木

平成26年度

施政方針

2月13日、風間康静市長が第403回白石市議会定例会で施政方針演説を行い、平成26年度の市政運営の基本的な考え方を明らかにしました。

「共汗・共学・共生」を基本理念に
市民総参画のまちづくりを推進！
次の世代に誇りを引き継ぐことができる
「ふるさと白石」の実現を目指します



▲2月13日、議場で施政方針を述べる風間市長

東日本大震災から3年が経過 震災前の活力を回復し 地域の価値を高めていく再生期へ

放射能対策は、「白石市除染実施計画」に基づき、これまで「子ども空間」の除染作業を優先的に実施しました。平成26年度は、除染実施対象区域内の民有地も、事前調査の実施で除染対象を確定し、所有者から除染の同意を得た民有地から地区ごとに除染作業を実施して、空間放射線量の低減化を図ります。

また、焼却灰の収集・保管は、地域の皆さんの理解が得られ仮置場を設置できた小原と越河地区は昨年より収集・保管を開始。斎川地区は本年3月から収集・保管を開始します。その他の地区も、引き続き地区ごとの仮置場の設置に努め、合意できた地区から順次、収集・保管を行います。

空間放射線量の測定と食品などの放射能濃度の測定は、継続して実施し、市民生活の安心・安全を確保するとともに風評被害を払拭するよう努めます。

さらに、3年連続となりますが「塩化カリウム肥料」を水稲作付け農家全戸に配布し、安全・

安心な米作りを支援するなど、風評被害から全力で地域農業を守ります。

「第五次総合計画」4年目

平成26年度は、「第五次白石市総合計画」の4年目。引き続き総合計画に掲げた施策を通し、「共汗・共学・共生」を基本理念とした市民総参画のまちづくりを推進して、次の世代に誇りを引き継ぐことができる「ふるさと白石」の実現を目指します。

その中でも、雇用の確保や製造業の振興などを図るための企業誘致は、昨年、白石インター工業団地に「株式会社 Pa i t a c」の大規模物流センターが、天王工業団地に「メークス株式会社」の工場がそれぞれ完成。操業を開始し、地域経済の活性化や、地元雇用の創出などに寄与しているところです。

また、大鷹沢三沢地区に「株式会社 T B M」の新工場が進出することが決まり、去る2月6日、宮城県庁において立地協定

●放射能対策事業(事業費：1億8,948万2千円)

「白石市除染実施計画」に基づき、除染実施対象区域内の民有地の除染作業に取り組み、原発事故前の安心・安全な生活環境を一刻も早く取り戻すため、放射線量の低減化を図ります。

また、焼却灰の収集・保管も、引き続き地域の皆さんの理解を得ながら、地区ごとの仮置場の設置に努め、合意できた地区から順次、収集・保管を行います。

を締結したところであり、併せて、震災復興に向けた大きな原動力になるものと期待しています。今後も、私、自らがさまざまな機会をとらえトップセールスを行うことはもちろん、宮城県をはじめ関係機関や市議会議員の皆さんと連携しながら、企業誘致に向けた活動を積極的に進めます。

Target1 豊かな感性と人間性を育み 伝統文化を継承するまち

学校教育の充実・ 歴史文化の継承と創造

学校教育の充実には、児童の確かな学力向上のため、平成25年度に導入したパソコンや電子黒板、校内無線LANなどの学校ICT環境機器を活用した学習への取り組みを推進するとともに、小学6年生を対象とした市独自の「学力定着度調査」と併せて、新たに全学年を対象とした「学力調査」を行い、学力の全体的な底上げを図ります。

さらに、近年問題となっている食物アレルギーに対応すべく、老朽化した給食センターの新設整備を進めて学校給食の安全安心に努めます。

生涯学習の推進は、生涯学習フェスティバルの開催や碧水園、ホワイトキューブなどの文化・体育施設での事業やイベントを通して、市民の一層の生涯学習の推進を図ります。

歴史文化の継承と創造は、白石城茶会、白石城歴史探訪ミュージアムでの企画展、武家屋敷、検断屋敷での伝統行事の再現などを通じて白石の歴史的魅力を感じる場を創出します。加えて、歴史情緒を体感できる城下町回遊ルート、特に沢端川流域を活用した桜並木のライトアップや、「沢端川の環境を守り鯉を育てる会」などと連携した沢端川流域の環境保全と観光振興を図り、交流人口の拡大に努めます。

●学校給食センター用地の取得(事業費：3,600万円)

食物アレルギーへの対応、施設の老朽化と規模の縮小に対応するため、新学校給食センターの建設用地を取得します。

●小学生学力調査(事業費：218万9千円)

小中学生の学力向上のためには、小学校入学後早い段階で各児童の学力を把握することが重要であると考え、小学校全児童を対象とした市独自の学力テストを年2回実施し、学習状況の改善を図ります。



▲春と秋の恒例行事「川干し清掃奉仕活動」。市内の企業や団体、個人など300人を超える人たちが参加し、沢端川周辺の清掃活動を行っている



▲きれいな沢端川で泳ぐ鯉